

令和2年度 二上小学校研究構想図

学校教育目標

- あ 明るい子
- い 命を大切にする子
- さ 最後までやり抜く子
- つ 強い体と心をもつ子

児童の実態

- ・理科・生活科には興味・関心が高い傾向にある。
- ・自ら進んで発言する意欲が高い児童が多い。
- ・自分の力で粘り強く取り組もうとする児童が多い、
- ・学習内容の定着について課題がみられる。
- ・実験をする際に予想や仮説を立てることに苦手意識がある。
- ・友達の見聞を聞いて考えたり、自分の意見と比べたりすることに苦手意識がある。

研究主題 研究教科：「理科・生活科」

「やってみよう」「考えてみよう」主体的に学ぶ二上っ子の育成

～自然事象との出会いを大切にして、学びを獲得する生活科・理科教育の充実～

各学年の目指す児童像

低学年	中学年	高学年	若草	専科
自然事象のおもしろさ不思議さに気づき、自分の思いや願いを工夫して、表現する子	「なぜだろう」と興味をもって考えることを通して、「なるほど、わかった」と問題を解決できる児童	自然事象から主体的に問題を見付け、解決に向かって考える子	身の回りの具体的な活動や体験を通して自分の生活とのかかわりについて気付くことのできる児童	課題を自分のものとしてとらえ、手を動かし、体を動かし、心を動かして主体的に表現しようとする子

研究仮説

自然に触れる体験や事象との出会いを充実させることで、児童の意欲を引き出すことができる。また、問題解決の学習過程を重視して授業を展開していくことで、主体的な学びを持続することができ、児童の記憶に残る学習となる。その結果、学習したことを自分の力として獲得することができるだろう。

児童に身に付けさせたい力

- ・学習を自分事として考え、主体的に取り組む力
- ・学んだことを活用して様々な問題を解決する力
- ・自分の思いや意見を相手に正確に伝える力
- ・教科、単元でつけるべき力の定着

具体的な手立て

- ・事象提示、教材の工夫
- ・問題解決の学習過程の定着、掲示物の工夫
- ・児童同士の関わり合い活動の充実
- ・環境整備（理科室 等）